



メモリアルイヤー 2009

前田 博¹

2009年は九州工業大学にとって、特別な年に当たります。ここでは、2009年にまつわる幾つかの事柄を挙げて巻頭言としたいと思います。

まず、2009年は創立100周年の年であるということです。筑豊の炭鉱事業で財を成した安川敬一郎翁が、10万坪を越える「戸畑平原の最も坦潤なる中原の地」に、現在価値で数百億円とも言われる巨費を投じて私立明治専門学校（明専）を開校して以来、一世紀の歳月が流れたこととなります。100年の歩みを俯瞰してみますと、開校からわずか12年後の1921（大正10）年に起きた安川家の事業の行き詰まりによる官立移管問題、同時期に起きた大学昇格運動の挫折、戦時中の軍事態勢への組み込みと混乱、戦後の新制大学としての発足、高度成長期の工学部の発展、1965（昭和40）年頃からの学生運動による混乱、1986（昭和61）年の情報工学部設置と2001（平成12）年の生命体工学研究科の設置による発展、2004（平成16）年の法人化による新たな大学運営など、大きな時代のうねりの中で幾重もの星霜が重ねられてきました。その過程に一貫して流れていたのは、教育理念である「技術に堪能なる士君子の養成」を旗印に、それをいかに時代に適合させ、継承していくかという不易の議論であったように思われます。100周年記念募金も、多くの卒業生や企業などから応援を受け、平成21年1月時点で、約5億5千万円もの浄財が寄せられています。記念事業として、グローバルマインドを備えて世界に羽ばたく今日の「技術に堪能なる士君子」を育成するための教育事業を計画しているところです。

さて、全学の情報基盤を預かる情報科学センターにとっても、2009年は特別な年となりそうです。本年1月には、積年の課題であった統合認証システムが導入され、4月からの稼働を目指しています。今後、種々の情報システムは更新時に漸次統合認証基盤と連結されていくこととなります。これによって、将来的には全学の情報システムが同一の認証基盤の上で稼働することとなり、複数の情報システム間をまたいだ新たな付加価値の高い情報サービス提供の下地が出来上がったこととなります。しかし頭が痛いのは予算の問題です。2009年度政府予算案では、国立大学の運営費交付金1%削減が今後とも継続されるということが盛り込まれており、情報基盤に振り向けられる予算も大きな影響を免れないでしょう。予算制約下での創意工夫が一層求められることとなります。

昨年12月、情報科学センターが中心となって第21回全国情報教育研究集会の当番校を務め、無事に大好評をもって大役を果たし終えました。ご同慶の至りです。印象的であったのは、基調講演で触れられた、高等学校の学習指導要領の改訂に伴う教科「情報」の学習内容の大幅な変更に関することでした。昨年12月に学習指導要領（案）が公表され、現在パブリックオピ

¹九州工業大学 副学長（学術情報担当） hmaeda@ecs.kyutech.ac.jp

巻頭言

ニオンを求めている段階です。大学の情報教育も少なからず影響を受けることになりそうです。平成 25 年度から実施される予定となっていますので、継続的な情報収集と共に大学での情報科目のカリキュラムの見直しも念頭に置いておく必要があります。

最後に、本学の情報セキュリティポリシーに関する基本規定が昨年 6 月に制定され、新たな情報セキュリティ体制がスタートしました。階層的に、最高情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ監査責任者、情報セキュリティ責任者、組織別情報セキュリティ責任者、情報システムセキュリティ責任者、情報システムセキュリティ管理者が設置され、各自の責任が明文化されました。昨年末からその実施に向けての講習会が始められているところです。2009 年は講習会を継続すると共に、現場からのフィードバックに基づいて、利用規程やガイドラインを洗練させ、本学にマッチした情報セキュリティ体制を確立して行く重要な年となります。関係者各位のご努力を引き続きお願いする次第です。